



静岡 陸協 会報

第 38 号 (2025 年 8 月 25 日 発行)
 一般財団法人
 静岡陸上競技協会
 〒420-0032
 静岡市葵区両替町 2-3-6 (2F)
 TEL・FAX 054-253-9801

暑熱対策と陸上競技大会

理事長 川口雅司



も一丸となって努力していきましょ。そして、どんな急な変更があっても『強い選手が上位に来ること』『力を出しきれなかった選手は何か足りなかったこと』を肝に銘じて精進していくことを期待します。

高校生アスリートのナンバーワンを競う全国高校総体が、7月25日から5日間ホットスタツフワールド広島で開催されました。レース数削減に伴うタイムレース決勝への変更、跳躍・投てきの試技数の変更、暑い時間帯の練習場の閉鎖など、暑熱対策のため数々の対応がなされた大会となりました。そんな中で本県選手は、大幅な自己ベストで入賞した選手はいたものの、全体的には戦前の予想以上に厳しい結果となりました。

来年は滋賀インターハイ。全国で活躍できる選手を育てるよう指導者・選手と



大きな競技会では、前年までの大会をベースに競技時間や申し合わせ事項など



の競技運営方法が決定されます。歴史あるインターハイが来年度以降どのような競技会運営をするのか全国高体連陸上競技専門部の判断が待たれます。今年の大大会をベースにするのか、開催時期・参加人数・競技方法を根本的に変更するのかなど、全国高体連や日本陸連の意見を聞きながらの決定になるでしょう。

東京二〇二五世界陸上が近づいて来ました。『二秒後、世界が変わる。』のキャッチコピーのように、この大会を実際に観ることで私たちの内面が変化し、陸上競技に対する新たな情熱が湧きあがってくるようなそんな大会になることを期待しています。もちろん日本人選手の活躍、本県関係選手の活躍を心より願っています。

世界陸上の翌週、U20日本選手権が草

薙で開催されます。こちらは全国から集結したトップアスリートが私たちの目の前で世代のチャンピオン目指して競い合っています。一人でも多くの小・中・高校生に草薙の地で素晴らしいパフォーマンスを観て欲しいと思います。役員・関係者の方々にはご尽力いただくこととなりますが、宜しくお願いたします。

冒頭の暑熱対策と今後の陸上競技大会の在り方は、色んな視点があるため簡単には決定できないと思われれます。しかしながら、全国インターハイが競技者の安心・安全を確保しながらも、『競技者が目指す大会であり続けること』『全国の陸上競技人口を減らさない運営方法であること』という重要な視点を見失ってはならないと思っています。関係者の先見性のある的確な判断を望みます。



静岡陸上競技協会

会長 西島昭男



引き続き、会長の職を拝命いたしました西島です。改めまして、どうぞよろしくお願いたします。

この二年余り、様々な大会へ出席したり、県内の陸上関係者の皆様と接する中で、競技としての魅力はもとより、陸上が人の成長や地域の活力に果たす役割の大きさを実感しています。しかしながら、競技人口の減少、とりわけ子供たちの参加者数の減少は、大きな課題となっております。

また、昨今の地球温暖化が、陸上競技

をはじめ屋外での運動に、深刻な影響を及ぼしています。国立環境研究所と早稲田大学の研究グループによれば、今後さらに屋外での運動が困難になると予測されるため、大会の時期の変更や屋内運動場の整備が急がれるとの報告が出ております。当協会も今以上の対策を進めていかなければなりません。

陸上にとって厳しい状況の中、競技のすそ野を広げる取り組みとして、県東部・中部・西部それぞれの地域に根ざした陸上イベントを企画・実施していかねばならぬと考えております。選手や保護者、指導者のみならず、地域の皆様にも陸上の魅力を体感していただける機会とし、競技文化の定着を図りたいと思います。その実現のためには、安定した運営と予算の確保が不可欠であり、引き続き行政・関係団体・企業の皆様と力を合わせていきたいと思います。

私は陸上競技の経験者ではございませんが、これまで様々なご縁をいただき、陸上を通じて多くの感動を得てまいりました。今後も微力ながら、現場の声に耳を傾け、選手の皆様や関係各位のお役に立てますよう頑張っております。引き続きのご指導・ご協力をよろしくお願いたします。

令和7・8年度 一般財団法人静岡陸上競技協会役員

- 会長 西島昭男
- 副会長 綾部信明
- 理事 山口嘉一
- 副理事長 川口雅司
- 理事 小林一幸 (東部理事長)
- 岩本稜兒 (中部理事長)
- 神谷晃尚 (西部理事長)
- 評議員 梶 壽雄
- 西尾 誠
- 旭 光徳
- 新聞一夫
- 村上 馨
- 日向 城
- 小田木嗣佳
- 寫 佳久
- 加藤洋一
- 小池一男
- 渡邊勝大
- 土屋雅孝
- 望月勇志
- 原田洋一郎
- 佐藤和久
- 筒井計臣
- 木下佳彦
- 笠井高昭
- 森 りさ
- 鈴木康弘
- 内野悦子
- 石田祐子
- 杉井將彦
- 影山富士
- 松下昭博
- 会長指名理事 渡辺辰彦
- 高体連理事 伊藤武郎
- 西島多香子
- 中体連理事 西井勝章
- 山本綾香
- マスターズ理事 星 利光
- パラ陸上理事 森 貴司
- 監 事 大坪 宏
- 池谷直美
- 鈴木満也
- 事務局 (事務局長) 小池一男
- 総務委員会 (委員長) 小沢 誠
- 競技委員会 (委員長) 堀之内 大
- 審判委員会 (委員長) 榎本好孝
- 強化委員会 (委員長) 高橋和裕
- 普及委員会 (委員長) 倉嶋義人
- 情報システム委員会 (委員長) 三枝宣男
- 施設委員会 (委員長) 小泉大八
- 記録委員会 (委員長) 赤堀順一
- 広報委員会 (委員長) 水谷陽介
- スポーツ医科学委員会 (委員長) 齊藤史門
- 指導者養成委員会 (委員長) 西島信弘

…… 静岡国際女子400mで静岡出身の2人が快走 ……

女子400メートルでは、前半、浜松市立高校出身の松本奈菜子が積極的に飛ばしました。しかし、後半、東海大静岡翔洋高校出身・日体大のフロレス・アリエが驚異の追い上げを見せました。ラスト100で一気に追い抜くと、日本記録を上回る51秒71でゴール！本人もこの好タイムに驚きの声を上げていました。

日本体育大学
フロレス・アリエ選手

優勝!!



51秒を見たとき、自分ではない、うそー！って思いました。
地元でこの記録を出せたのが一番思い出になりました。静岡の先生方に少しでも成長した姿を見ることができてよかったです。
ウエイトも以前の倍はあがるようになりました。
愛犬の名前は「クリスピー」です！

東邦銀行
松本奈菜子選手



コンディションはよく、自己ベストが出るかなという感じで走っていました。
後半の100でタイミングが合わず失速してしまっただけが悔しいです。
この静岡国際を盛り上げることができたのでうれしいです。

静岡国際OP男子マイルリレーにユーチューバーチームが参加

男子マイルリレーでは、静岡県チームとして、静岡市出身の高瀬慧選手も参加し、3分19秒28でみごと優勝しました。また、TEAM You Tubersも初参加し、3分24秒01で3位に食い込む活躍を見せ、大会のオープニングを大いに盛り上げました。

たむじょ一選手 (You Tuber)

Q：今日の走りはどうでしたか？
A：120点です！
Q：走ってみての感想はどうでしたか？
A：普段は長距離なので、生まれて初めてマイルリレーを走りました。順位は落としてしまいましたが、すごく楽しかったです！



高瀬慧選手

Q：久々に、地元静岡で、御自身が企画し、走り、しかも優勝ということで、どうでしたか？
A：最高です！一緒に走ってくれたチームメイト、他のチームのみなさん、見に来てくれた多くの観客のみなさん、そして静岡陸協のみなさんに感謝しています。



2025 静岡国際陸上

5月3日に静岡県袋井市のエコパスタジアムで行われた静岡国際陸上。9月に東京で開催される世界陸上に向けて、有力選手たちが静岡に集結しました。

男子100メートル。スタートから横一線となり、50メートル付近で抜け出したのは桐生祥秀。そのまま1位でフィニッシュ！10秒29のタイムで優勝し、会場を沸かせました。

女子800メートルに出場したのは、高校3年生の久保凜。大会新記録の2分0秒28をマークし、連覇達成です。

男子200メートル決勝には、飯塚翔太と、予選で世界陸上参加標準記録を突破した鶴澤飛羽が登場。スタートから飛び出した鶴澤は、ここからぐんぐん加速。

100メートルを過ぎたあたりで後続を引き離すと、そのままトップを独走。日本記録まであと0秒02に迫る、20秒05で大会3連覇を達成。飯塚は20秒49で2位となりました。

女子800m 久保凜選手

タイムを見て、くやしい！って思いました。1分59秒は出したいです。1周目はリラックスして行けたんですけど、ラスト100で、こうしなきゃ！っていうのが出てしまって、うまく走れませんでした。毎日お風呂上りにマッサージを念入りにやっているのが好調の要因です。



男子100m 桐生祥秀選手

しっかり走りきれたことは大きな収穫です。今シーズンは自己ベストを狙っていきます。子供たちに声をかけてもらってうれしかったし、夢を与えられたかなと思います。連戦で、体には疲労があるんですけど、怪我をせず調整していくつもりです。



男子200m 飯塚翔太選手

今日のベストは尽くせた！けど、鶴澤君はやっぱり速い。めちゃくちゃ刺激を受けた。レースとしては、後半の走りは悪くなかったので、前半からもっと勝負をかけていく走りがしたいですね。これからも自分自身を超えていきます。



男子200m 鶴澤飛羽選手

追い風だったので、19秒台が出せると思っていました！くやしいです。エコパは相性がいいトラックです。これから世界と戦っていくには、もっと前半からスピードを乗せていきたいと思います。



〔編集〕
静岡陸協広報委員会・静岡陸協事務局
水谷陽介（編集・文責）
橋本美智夫（編集委員）
（印刷・大日三協株）

